

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2008-212707

(P2008-212707A)

(43) 公開日 平成20年9月18日(2008.9.18)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 6 3 F	7/02	2 C 0 8 8
(2006.01)	A 6 3 F	3 1 0 C
	A 6 3 F	3 0 4 D

審査請求 有 請求項の数 1 O L (全 25 頁)

(21) 出願番号	特願2008-114186 (P2008-114186)	(71) 出願人	000144522
(22) 出願日	平成20年4月24日 (2008. 4. 24)		株式会社三洋物産
(62) 分割の表示	特願2002-87893 (P2002-87893)		愛知県名古屋市千種区今池 3 丁目 9 番 2 1 号
	の分割	(72) 発明者	飯島 航
原出願日	平成14年3月27日 (2002. 3. 27)		愛知県名古屋市千種区今池三丁目9番21号 株式会社三洋物産内
(特許庁注：以下のものは登録商標)		Fターム(参考)	2C088 BC25 DA08 DA13 EA24 EB78
1. QRコード			

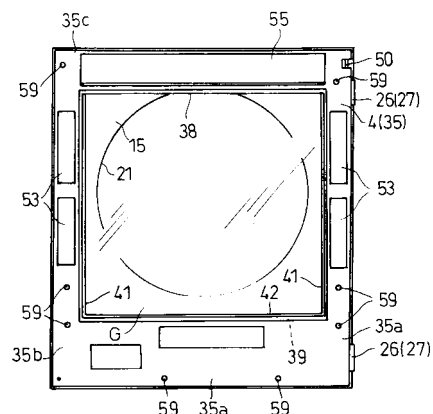
(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【要約】

【課題】機能部品が増加してもその増加によって生ずる諸問題に対応できるパネル体を構成することが可能な遊技機を提供すること。

【解決手段】機能毎に分割された複数のパネルを組み立てて一体化するようにしたパチンコ遊技機であって、扉枠を構成する扉枠本体15を金属製の取り付けフレーム4に回動可能に装着する。取り付けフレーム4に対してはLED基板を連結キャッチ53, 55を使用して着脱可能に装着する。LED基板は扉枠本体15の透孔を通して扉枠本体15前面に配置されたカバーを照明する。

【選択図】 図29



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

複数の機能部品を組み合わせて一枚のパネル体を構成し、複数の同パネル体を組み立てて一体化するようにした遊技機において、

複数の機能部品を同じく機能部品としての金属製ベースに対して装着し、前記パネル体を構成するようにしたことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、パチンコ遊技機やスロットマシン等のように個別の機能を備えた複数のパネル体を組み立てて一体化し遊技者に所定の遊技を提供するようにした遊技機に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

遊技機として従来から親しまれているパチンコ遊技機やスロットマシン等は異なる複数のパネル体を組み合わせて製造するようになっている。例えばパチンコ遊技機に必要とされるパネル体としては具体的に扉枠、遊技盤、遊技機本体、機構盤等が挙げられる。要はこれら遊技機では各パネル体毎に機能を分担させこれらを組み合わせることで結果的に遊技機として機能し得るようにしているわけである。これらパネル体は一般に外枠をベースとして前後方向に重ね合わせながら組み立てられ一体化される。ここに各パネル体自体も複数の機能部品を組み合わせて構成されている。そして、機能部品の組み合わせによってパネル体として所定の機能を奏するように構成されている。

【0003】

従来では付属的な機能部品、例えばLED基板、中継基板、表示装置等はやはり機能部品としてのプラスチック製ベースに装着され、更に必要な場合には補強のための金属製の薄板状のフレームが固着されてパネル体が構成されるようになっている。

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

ところで、最近の遊技機では種々の機能を充実させる要請から上記プラスチック製ベースにより多くの機能部品を装着する傾向にある。するとプラスチック製ベースがそれら機能部品の装着による重量や装着用の透孔を形成したりしなければならず、いきおいプラスチック製ベースに十分な強度を保証できなくなっている。また、同ベースに対する機能部品の配置場所も十分確保できなくなっている。

【0005】

本発明は、このような従来技術に存在する問題点に着目してなされたものである。その目的とするところは、機能部品が増加してもその増加によって生ずる諸問題に対応できるパネル体を構成することが可能な遊技機を提供することにある。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

上記の目的を達成するために、請求項1に記載の発明では、複数の機能部品を組み合わせて一枚のパネル体を構成し、複数の同パネル体を組み立てて一体化するようにした遊技機において、複数の機能部品を同じく機能部品としての金属製ベースに対して装着し、前記パネル体を構成するようにしたことをその要旨とする。

【0007】

請求項1の発明のような構成では、機能部品は同じく機能部品である金属製ベースに対して装着させられてパネル体を構成することとなる。

【発明の効果】**【0008】**

請求項1に記載の発明では、機能部品は同じく機能部品である金属製ベースに対して装

10

20

30

40

50

着させられて全体としてパネル体を構成するため多数の機能部品からなるパネル体であっても強度をしっかりと保持させることが可能となる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0009】

以下、本発明をパチンコ遊技機に応用した実施の形態について図面に基づいて説明する。まず、各実施の形態に共通する概略構成について説明し、次いで各実施の形態の固有の構成及び作用効果について説明する。尚、以下の説明においては前面、前方或いは表面側とは遊技者が正対する側をいい、後面、後方或いは裏面側とはそれら正対する側の反対側をいう。また、特記なき限り左右とは前面からみた左右方向をいう。

【0010】

まず、図1～図3に基づいてパチンコ遊技機の構成の概略を説明する。

【0011】

図2に示すように、パチンコ遊技機ではパチンコ機本体1を中心としてその他のパネル状の構成部材がその前後方向に積層状に配置されている。パチンコ機本体1の上半身に形成された遊技盤取り付けスペース2には遊技盤3が嵌合されている。遊技盤3の前方位置には扉枠5が配設されている。扉枠5は金属製ベースとしての取り付けフレーム4をベースとして機能部品としてのプラスチックの扉枠本体15が装着されて構成されている。取り付けフレーム4には機能部品としてのガラス窓G及び同取り付けフレーム4に装着された機能部品としての第1～第3のLED基板L1～L3、扉枠本体15の下部位置に装着された機能部品としての上受け皿6が装着されている。扉枠5に関しては詳しく後述する。

【0012】

パチンコ機本体1において遊技盤3の下方位置にはカバープレート7が配設されている。カバープレート7はパチンコ機本体1に対して固着されている。カバープレート7の裏面にはパチンコ球発射機構8が配設されている。カバープレート7には前方に突出形成した下受け皿9が形成されている。下受け皿9の右側方にはパチンコ球発射機構8に連動する操作ハンドル10が取付けられている。

【0013】

遊技盤3の後方位置にはこれらを背面から覆うように機構盤11が配設されている。機構盤11の下方には取り付けベース12が配設されている。取り付けベース12は機構盤11とは別体に構成されたパチンコ機本体1に装着される部材であって、各種基板が搭載されている。

【0014】

これら各パネルは主となるパチンコ機本体1を介して額縁状に枠組みされた四角形の木製外枠13に装着されている。パチンコ機本体1は木製外枠13に対して着脱可能に嵌合されている。

【0015】

次にこのように構成されるパチンコ遊技機における扉枠5において特に扉枠本体15及び取り付けフレーム4の構成を中心に説明する。

(実施の形態1)

まず扉枠本体15の構成について説明する。図1及び図2に示すように、プラスチック製の扉枠本体15は中央にガラス窓G用の略円形の大開口部21が形成された略長方形板体とされている。大開口部21からは背後の遊技盤3の前面に形成された遊技面22が露出される。扉枠本体15前面側において大開口部21の上部の装着部15aには正面形状略長方形の第1の電飾パネル23が配設されている。扉枠本体15前面側において大開口部21の左右の装着部15b, 15cには第2の電飾パネル24, 25が配設されている。両第2の電飾パネル24, 25は互いに対称な弧状部材であって、第1の電飾パネル23とともに大開口部21を包囲している。

【0016】

両第2の電飾パネル24, 25の下端には同両第2の電飾パネル24, 25と連続する

10

20

30

40

50

透明パネル 30 が配設されている。これら各パネル 23 ~ 25, 30 は機能部品を構成し、扉枠本体 15 の前面側から装着可能とされている。各パネル 23 ~ 25, 30 は図示しないビスによって背面側から固定されるようになっている。図 5 に示すようにする。図 1 における扉枠本体 15 の左側面位置には取り付けフレーム 4 との間でヒンジ部 26 を構成する係合部材 27 が形成されている。

【0017】

図 4 に示すように、扉枠本体 15 の前記各電飾パネル 23 ~ 25 の配置位置には複数の円形状の透孔 31 が形成されており、後述する LED が同透孔 31 から前方に露出するようになっている。また、透明パネル 30 位置においては方形の大型透孔 32 が形成されており、透明パネル 30 を通して遊技部としての遊技面に貼付された検閲シール等が目視

10

【0018】

図 1 ~ 図 5 に示すように、大開口部 21 の前面側中央下部位置には機能部品としての上受け皿 6 が形成されている。上受け皿 6 と大開口部 21 の間には球貸し用の操作ボタン 33 とカードの残量を 7 セグスタイルで表示する表示パネル 34 が配設されている。これら操作ボタン 33 や表示パネル 34 は機能部品を構成する。

【0019】

扉枠本体 15 は取り付けフレーム 4 に対して装着されるようになっている。図 6 ~ 図 8、図 26 ~ 図 28 に示すように、取り付けフレーム 4 は合金をプレス成形して得られる長方形形状の外郭をなすフレーム本体 35 を有している。フレーム本体 35 の全外周縁にはフレーム本体 35 から前方に突出したフランジ 37 が形成されている。フレーム本体 35 の中央位置には大きく方形に開口された大開口部 38 が形成されている。フレーム本体 35 において大開口部 38 の左右に配置された部分を左右の縦フレーム 35a, 35b とし、大開口部 38 の上下に配置された部分を上下フレーム 35c、35d とする。扉枠本体 15 に取り付けフレーム 4 が装着された状態において縦フレーム 35a, 35b は扉枠本体 15 の大開口部 21 の左右位置を補強し、上下フレーム 35c、35d は扉枠本体 15 の大開口部 21 の上下位置を補強する。

20

【0020】

図 6、図 7、図 27 及び図 28 に示すように、大開口部 38 の全周縁であってフレーム本体 35 の前面側には凹部 39 が形成されている。同凹部 39 の左右の内周縁は折り曲げ形成されてフレーム本体 35 の裏面側に突出されており左右突出部 39a, 39b とされている。左右突出部 39a, 39b は上下方向に沿って延出させられ、同左右突出部 39a, 39b にはそれぞれ左右の案内レール 41 が装着されている。同凹部 39 の下部内周縁は折り曲げ形成されてフレーム本体 35 の裏面側に突出されており下部突出部 39c とされている。下部突出部 39c は左右方向に沿って延出させられ、同下部突出部 39c には支持レール 42 が装着されている。

30

【0021】

ガラス窓 G は左右の案内レール 41 に案内された状態で支持レール 42 によって下方から支持されるようになっている。本実施の形態 1 ではフレーム本体 35 に対して後方に向かって案内レール 41 及び支持レール 42 が突出されているためこれらに支持されているガラス窓 G はフレーム本体 35 の裏面に配設されることとなる。ガラス窓 G は更に後方の遊技盤 3 の遊技面との間隔も考慮されて配置される。図 27 に示すように、ガラス窓 G が案内レール 41 及び支持レール 42 に支持された状態でフレーム本体 35 のどの部分にも接触することはない。

40

【0022】

フレーム本体 35 の大開口部 38 の左右位置、すなわち左右の縦フレーム 35a, 35b には上下方向に延出された第 1 の機能部品取り付け口 44 が形成されている。同取り付け口 44 はそれぞれ左右位置において上下 2 箇所直列状に合計 4 つの孔として配設されている。同各取り付け口 44 下端縁には左右方向に延出された補強リブ 45 が前方に向かって突出形成されている。補強リブ 45 はプレス加工によってフレーム本体 35 と一体的

50

に形成されている。取り付けフレーム 4 の大開口部 3 8 の上部位置、すなわち上部フレーム 3 5 c には左右方向に延出された第 2 の機能部品取り付け口 4 6 が形成されている。同各取り付け口 4 6 下端縁には左右方向に延出された補強リブ 4 7 が前方に向かって突出形成されている。補強リブ 4 7 はプレス加工によってフレーム本体 3 5 と一体的に形成されている。フレーム本体 3 5 には同フレーム本体 3 5 を扉枠本体 1 5 に装着するための固定ビス（図示せず）用の取り付け孔 4 8 が散点的に配設されている。

【 0 0 2 3 】

図 8 に示すように、左縦フレーム 3 5 a には外枠 1 3 に対して扉枠 5 を固定させるためのラッチ 4 9 が上下 2 箇所の後方に向かって突設されている。右縦フレーム 3 5 b には遊技盤 3 に対して係合されて扉枠 5 を片持ちに保持するための支持金具 5 0 が上下 2 箇所に形成されている。図 6 及び図 7 に示すように、支持金具 5 0 に隣接してヒンジ部 2 6 を構成する係合ピン 5 1 が形成されている。図 1 7 に示すように係合ピン 5 1 は前記扉枠本体 1 5 側の係合部材 2 7 内に挿入された状態でヒンジ部 2 6 を構成するため扉枠本体 1 5 は取り付けフレーム 4（フレーム本体 3 5）に対してヒンジ部 2 6 を中心に回動可能となる。

10

【 0 0 2 4 】

図 8 に示すように、フレーム本体 3 5 にはシール 5 2 が貼付されている。シール 5 2 には取り付けフレーム 4 に装着された LED 基板 L 1 ~ L 3 の廃棄時期（つまりいつまで使用できるかのデータ）が記載されており、パチンコ遊技機を回収した際に再度 LED 基板 L 1 ~ L 3 を他のパチンコ遊技機に搭載してもよいかどうかの指標となる。また、図 6 ~ 8 に示すように、フレーム本体 3 5 にはアース線 E が接続されておりパチンコ遊技機をセットした状態で蓄積された静電気をアースングして放電するようになっている。

20

【 0 0 2 5 】

次にこのような構成の取り付けフレーム 4 に対して装着される第 1 ~ 第 3 の LED 基板 L 1 ~ L 3 について説明する。図 9 及び図 1 0 に示すように、各 LED 基板 L 1 ~ L 3 は基板表面 L a に発光部としての複数の LED が配設され、基板表面 L a からはケーブル C b が延出されている。基板表面には LED 用の配線パターン P がプリントされている。第 1 ~ 第 3 の LED 基板 L 1 ~ L 3 はそれぞれ取り付けフレーム 4 のフレーム本体 3 5 の前面の左右及び上部装着部 3 5 a , 3 5 b , 3 5 c にそれぞれ装着されるようになっている。

30

【 0 0 2 6 】

第 1 ~ 第 3 の LED 基板 L 1 ~ L 3 は仲介部材としての第 1 及び第 2 の連結キャッチ 5 3 , 5 5 を介してフレーム本体 3 5 に対して固着される。図 1 1 ~ 図 1 6 に示すように、ABS 樹脂製の第 1 及び第 2 の連結キャッチ 5 3 , 5 5 は長方形形状のキャッチ本体 5 7 と、同キャッチ本体 5 7 の前面側両端寄りから前方に向かって突出する一対の揺動脚 5 8 とにより基本的な構成が形成されている。対向配置された一対の揺動脚 5 8 の外側面には係合部としての第 1 の押さえ部 6 0 が形成されている。第 1 の押さえ部 6 0 は揺動脚 5 8 の側面長手方向に沿って延出されており、その前面にはテーパ状の案内面 6 1 が形成されている。揺動脚 5 8 の内側面には係合部としての第 2 の押さえ部 6 3 が形成されている。第 2 の押さえ部 6 3 は揺動脚 5 8 の側面長手方向に沿って延出されており、その前面にはテーパ状の案内面 6 5 が形成されている。第 2 の押さえ部 6 3 から若干キャッチ本体 5 7 に寄った位置には棚部 6 6 が形成されている。

40

【 0 0 2 7 】

第 1 及び第 2 の連結キャッチ 5 3 , 5 5 による第 1 ~ 第 3 の LED 基板 L 1 ~ L 3 の詳しい装着作用については後述する。

【 0 0 2 8 】

次に、第 1 ~ 第 3 の LED 基板 L 1 ~ L 3 の取り付けフレーム 4 への装着作業及び扉枠本体 1 5 の取り付けフレーム 4 への装着作業について説明する。

【 0 0 2 9 】

まず、第 1 ~ 第 3 の LED 基板 L 1 ~ L 3 の取り付けフレーム 4 への装着作業について

50

説明する。ＬＥＤ基板Ｌ１の装着作用についてはＬＥＤ基板Ｌ２と基本的に同じであるためＬＥＤ基板Ｌ２側の装着作業のみ説明する。

【００３０】

作業者はまず第１の連結キャッチ５３を把持し、同連結キャッチ５３を取り付けフレーム４の第２の機能部品取り付け口４６に対して図１８に示すように取り付けフレーム４の後方から装着していく。

【００３１】

図２１（ａ）に示すように、第１の連結キャッチ５３の揺動脚５８を第１の機能部品取り付け口４４に挿入させる。すると対向する揺動脚５８の間隔はちょうど同取り付け口４４の幅と等しいためすみやかに挿入されて行き、揺動脚５８の外側面形成されている第１の押さえ部６０が同取り付け口４４の縁部４４ａと当接する。この段階で更に第１の連結キャッチ５３を同取り付け口４４方向に押して行くと図１８（ｂ）に示すように揺動脚５８は案内面６１を介して縁部４４ａによって押動され徐々に内側に撓んでいく。そして、揺動脚５８が進出していった縁部４４ａと第１の押さえ部６０との係合状態が解除されると図１９及び図２１（ｃ）に示すように揺動脚５８は自身の弾性作用によって戻る。この状態で第１の連結キャッチ５３はキャッチ本体５７と第１の押さえ部６０とによって縁部４４ａ位置のフレーム本体３５を挟持することとなり同取り付け口４４位置に固定されることとなる。このように第１の連結キャッチ５３が装着された状態でちょうど第１の連結キャッチ５３は補強リブ４５の上に載置されることとなり（図１９、図２０、図２６等参照）、補強リブ４５は第１の連結キャッチ５３の一種の底板としての役割を果たすこととなる。

【００３２】

このような作業を上下の第１の連結キャッチ５３に対して行う。

【００３３】

次いで、このように固定された第１の連結キャッチ５３に対して図１０に示す第１のＬＥＤ基板Ｌ１を図１９に示すように取り付けフレーム４の前方から装着していく。

【００３４】

図２１（ｄ）に示すように、第１のＬＥＤ基板Ｌ１を揺動脚５８の第２の押さえ部６３の案内面６５に当接させる。この段階で更に第１のＬＥＤ基板Ｌ１を第１の連結キャッチ５３方向に押して行くと図２１（ｅ）に示すように揺動脚５８は案内面６５を介して第１のＬＥＤ基板Ｌ１に押動され徐々に内側に撓んでいく。そして、揺動脚５８が進出していった第１のＬＥＤ基板Ｌ１と第１の押さえ部６０との係合状態が解除されると図２０及び図２１（ｆ）に示すように揺動脚５８は自身の弾性作用によって戻る。この状態で第１のＬＥＤ基板Ｌ１は第２の押さえ部６３と棚部６６とによって挟持されることとなり第１の連結キャッチ５３を介して同取り付け口４４位置に固定されることとなる。

【００３５】

第１及び第２のＬＥＤ基板Ｌ１、Ｌ２をこのように装着した後、第３のＬＥＤ基板Ｌ３を装着するために第２の連結キャッチ５５を第２の機能部品取り付け口４６に対して図２２に示すように取り付けフレーム４の後方から装着していく。第２の連結キャッチ５５の装着作業は図２５（ａ）～図２５（ｃ）に示す通りである。この一連の作用は上記第１の連結キャッチ５３と同じであるため説明を省略する。

【００３６】

次いで、このように固定された第２の連結キャッチ５５に対して図９に示す第３のＬＥＤ基板Ｌ３を図２３に示すように取り付けフレーム４の前方から装着していく。第３のＬＥＤ基板Ｌ３の装着作業は図２５（ｄ）～図２５（ｆ）に示す通りである。この一連の作用は上記第１のＬＥＤ基板Ｌ１と同じであるため説明を省略する。

【００３７】

このＬＥＤ基板Ｌ１～Ｌ３のＬＥＤ基板用フレーム１６への装着作業はパチンコ遊技機組立ライン工程とは別のラインにて前もって行っておくことが可能である。

10

20

30

40

50

【 0 0 3 8 】

次いでこのように第 1 ～ 第 3 の L E D 基板 L 1 ～ L 3 を装着した状態の取り付けフレーム 4 の前面側に扉枠本体 1 5 を装着する。すなわち作業者は図 1 7 に示すように取り付けフレーム 4 側の係合ピン 5 1 に対して扉枠本体 1 5 側の係合部材 2 7 を嵌合させてヒンジ部 2 7 とし、取り付けフレーム 4 に対して扉枠本体 1 5 を片持ちに保持させるようにする。そして取り付けフレーム 4 と扉枠本体 1 5 とを重ね合わせ前記ビス止め用のビス孔 4 8 に対してビス 5 9 を螺着させて取り付けフレーム 4 と扉枠本体 1 5 とを固定する（図 2 9）。

【 0 0 3 9 】

このように構成することで本実施の形態 1 では次のような効果を奏する。

10

（ 1 ）従来金属フレームは扉枠本体 1 5 等の強度を補完する目的以外には用いられてはならず、機能部品を装着するベースとして金属製のベースを用いるという発想はなかった。このような構成とすれば様々な機能部品が必要となってくる状態においてプラスチック製のベースに多くの機能部品を装着させて強度低下に陥るといった不具合が生じることがなくなる。また、金属フレーム 4 側にこのように L E D 基板 L 1 ～ L 3 を装着させることで扉枠本体 1 5 側の L E D 基板 L 1 ～ L 3 と重なった位置には他の機能部品を配置することもでき、パネル体としての扉枠 5 の機能部品を装着する裕度が生まれる。

（ 2 ）機能部品が増加してきた場合にこれらをすべて扉枠本体 1 5 にそれぞれ別個に装着するとした場合には扉枠本体 1 5 にかかる荷重も増加し構造的にも複雑化することとなる。しかし、このように取り付けフレーム 4 （フレーム本体 3 5 ）に一部（あるいは全部）の機能部品を分担させることでそのような問題が解消されることとなる。

20

（ 3 ）前もって取り付けフレーム 4 に L E D 基板 L 1 ～ L 3 を装着しておけば取り付けフレーム 4 を扉枠本体 1 5 に対して装着するだけで L E D 基板 L 1 ～ L 3 の配置も可能となるため製造ラインにおける L E D 基板 L 1 ～ L 3 の取り付け作業が簡略化でき作業効率が向上する。

（ 4 ）取り付けフレーム 4 に対して扉枠本体 1 5 はヒンジ部 2 6 によって開放可能とされている。つまり扉枠本体 1 5 のみを取り付けフレーム 4 に対して開放してその裏面を露出させることができ、また、取り付けフレーム 4 については機能部品（ここでは L E D 基板 L 1 ～ L 3 ）が装着された前面を露出させることができるわけである。従って、点検作業等において扉枠本体 1 5 を取り付けフレーム 4 に対して開放させることが容易となり作業効率が極めて向上する。

30

（ 5 ）取り付けフレーム 4 に L E D 基板 L 1 ～ L 3 を装着するようにしたため取り付けフレーム 4 自体の剛性も向上することとなる。

（ 6 ）取り付けフレーム 4 は金属製であって、成形上の制限からこれに装着させる機能部品（ここでは L E D 基板 L 1 ～ L 3 ）を掛止するための構造を容易に形成することは困難である。しかし、上記のように第 1 及び第 2 の連結キャッチ 5 3 , 5 5 を使用してこれを介して L E D 基板 L 1 ～ L 3 を装着するようにしている。これによって機能部品の取り付けが可能となっている。

【 0 0 4 0 】

また、取り付けフレーム 4 とは別個に成形できる連結キャッチ 5 3 , 5 5 は自由な形状とすることができ、取り付けフレーム 4 に装着する機能部品に応じて自在に変形させることが可能となる。

40

【 0 0 4 1 】

更に、上記連結キャッチ 5 3 , 5 5 はプラスチック製であるためリサイクル可能である。

（ 7 ）フレーム本体 3 5 は大開口部 3 8 以外に取り付け口 4 4 , 4 6 を設けるために多くの透孔が形成されることとなる。しかし、上記連結キャッチ 5 3 , 5 5 によってこの取り付け口 4 4 , 4 6 は塞がれてしまうため強度の劣化は極力防止されることとなる。

（ 8 ）取り付けフレーム 4 にはフランジ 3 7 や凹部 3 9 や折り返した突出部 3 9 a ～ 3 9 c 等が形成されているため、薄板状であるにもかかわらず曲げ強度を必要十分に得ること

50

ができる。

(9) L E D 基板 L 1 ~ L 3 は一度の使用のみで廃棄するのではなくパチンコ遊技機を回収した後に改めて異なるパチンコ遊技機に搭載可能である。すなわちこれら複数の L E D 基板 L 1 ~ L 3 はリサイクル可能であるという機能の観点から見た場合共通性を有する。これらはまた、リサイクルしない場合であってもこのようにケーブル C b を有するプラスチック部材として分別廃棄が可能という機能の観点から見た場合にも共通性を有する。

(1 0) 取り付けフレーム 4 は金属製であってリサイクル可能な機能部品であるため L E D 基板 L 1 ~ L 3 をリサイクルするとともに自身も回収してリサイクルすることが可能である。

(1 1) L E D 基板 L 1 ~ L 3 のリサイクルの限界はシール 5 2 の使用日限をチェックすることでそれが可能である。そのため取り付けフレーム 4 を取り外した段階でシール 5 2 を見て再度リサイクルする場合と廃棄する場合に区別して分別することが容易となる。

(1 2) 凹部 3 9 内に L E D 基板 L 1 ~ L 3 のケーブル C b を通すことで周囲の壁面によってケーブル C b は包囲されるため遊技者側からケーブル C b が目視されてしまうことがない。

(1 3) L E D 基板 L 1 ~ L 3 を保持した状態で重量のあるこれら連結キャッチ 5 3 , 5 5 は揺動脚 5 8 によって自身で取り付け口 4 4 , 4 6 に支持されると同時に第 1 の連結キャッチ 5 3 は補強リブ 4 5 の上に、第 2 の連結キャッチ 5 5 は補強リブ 4 7 の上にそれぞれ載置されることとなる。従って連結キャッチ 5 3 , 5 5 は取り付け口 4 4 , 4 6 にしっかりと保持されて脱落することがなくなる。

(1 4) 各第 1 の連結キャッチ 5 3 は補強リブ 4 5 の上に載置されることとなる。そのためこれら連結キャッチ 5 3 に L E D 基板 L 1 , L 2 を装着した状態において補強リブ 4 5 が一種の底板となって L E D 基板 L 1 , L 2 が下方にスライドして連結キャッチ 5 3 から脱落することのないようになっている。

(1 5) 取り付けフレーム 4 の大開口部 3 8 の内周には突出部 3 9 a ~ 3 9 c が形成されているためこれらが一種の遮蔽壁として大開口部 3 8 の外側が見えにくくなっている。そのため、遊技者の目を気にすることなく取り付けフレーム 4 や扉枠本体 1 5 の裏面の構造を設計することができる。

(実施の形態 2)

実施の形態 2 は実施の形態 1 とは異なり第 3 の L E D 基板 L 3 の代わりに表示装置 7 0 が配設される場合である。図示において実施の形態 1 と対応する構成については同じ番号を付すことで詳しい説明を省略する。

【 0 0 4 2 】

図 3 2 及び図 3 3 に示すように、フレーム本体 3 5 の第 2 の取り付け口 4 6 を利用して同取り付け口 4 6 の横幅よりも短い機能部品、例えば液晶画面の表示部 7 1 を備えた表示装置 7 0 を L E D 基板用フレーム 1 6 に着脱可能に配置するようにしてもよい。

【 0 0 4 3 】

第 2 の取り付け口 4 6 には補強リブ 4 7 上に表示装置 7 0 が載置され上部装着部 3 5 c に対してビス 7 7 によって固定されるようになっている。表示装置 7 0 の左右には封塞プレート 7 3 が第 2 の取り付け口 4 6 の残った空間を封塞するように配置されビス 7 7 によって固定されるようになっている。

【 0 0 4 4 】

図 3 0 及び図 3 1 に示すように、扉枠本体 1 5 の大開口部 2 1 の上部の装着部 1 5 a には透孔 7 8 が形成されている。フレーム本体 3 5 (取り付けフレーム 4) に装着された表示装置 7 0 は実施の形態 1 と同様に扉枠本体 1 5 に固定され表示部 7 1 が透孔 7 8 から露出されるようになっている。透孔 7 8 には扉枠本体 1 5 前面側から表示部 7 1 の周縁を包囲するようにカバー 7 9 が装着されるようになっている。

【 0 0 4 5 】

表示装置 7 0 は左右の封塞プレート 7 3 にもビス 7 7 によって固定されるため表示装置 7 0 は第 2 の取り付け口 4 6 の左右幅よりも短いにもかかわらずフレーム本体 3 5 にしっ

10

20

30

40

50

かりと固定されることとなる。更に、フレーム本体 35 に左右方向に大きく開放された開口部が形成されるためフレーム本体 35 単独では強度が劣ってしまう。しかし、封塞プレート 73 は表示装置 70 を中間に介して直列状に連結されて第 2 の取り付け口 46 を完全に塞ぎ同取り付け口 46 の補強となるため強度の劣化が防止されることとなる。

【0046】

尚、この発明は、次のように変更して具体化することも可能である。

【0047】

・実施の形態 1 のように第 1 ～ 第 3 の LED 基板 L1 ～ L3 を直接第 1 又は第 2 の連結キャッチ 53, 55 の揺動脚 58 に把持させるのではなく、支持体を介在させて装着するようにしてもよい。例えば図 34 及び図 35 に示すように、LED 基板 L2 にちょうど揺動脚 58 に把持される形状（つまり上記実施の形態 1 での LED 基板 L1 の外形形状のような）の支持板 81 連結部 82 を介して連結する。そして、揺動脚 58 に支持板 81 を把持させるようにするものである。

10

【0048】

このように構成すると種々の形状とされた LED 基板 L1 ～ L3 のような機能部品に自在に対応させることができ、特に LED 基板 L1 ～ L3 のような LED の光を前方に発光させる機能部品ではより前方に進出させるような設計が可能となるため有利である。

【0049】

・上記各実施の形態では個々の連結キャッチ 53, 55 毎に 1 つの第 1 ～ 第 3 の LED 基板 L1 ～ L3 を把持するようにしていたが、例えば図 36 に示すように隣接する連結キャッチ 53 で 1 つの LED 基板 L2 を把持するようにしてもよい。

20

【0050】

・連結キャッチ 53, 55 の形状は上記各実施の形態に限定されることはない。例えば、図 37 のように連結キャッチ 55 のキャッチ本体 57 の両端にのみ揺動脚 58 を形成してもよい。すなわち、上記実施の形態 1 の第 2 の連結キャッチ 55 の揺動脚 58 とは 90 度ずれた向きに揺動脚 58 を配置するようにしてもよい。このような向きにして上記第 2 の同取り付け口 46 とは別位置で揺動脚 58 の作用によって装着するようにしてもよい。その他、キャッチ本体 57 の形状を変形させたり揺動脚 58 の幅を変更する等は自由である。

【0051】

30

・連結キャッチ 53, 55 の材質はその他のプラスチック製としてもよい。また、弾性体（例えば合成ゴム）で構成するようにしてもよい。弾性体とすれば連結キャッチ 53, 55 が大きく撓むため第 1 ～ 第 3 の LED 基板 L1 ～ L3 の撓みが極めて少なくなる。

【0052】

・上記実施の形態ではシール 52 に記載された日付によってリサイクル可能回数をチェックするようになっていたが、その他のリサイクル回数確認手段として例えばバーコード、QRコードを使用するようにしてもよい。また、リサイクル回数確認手段としてシール 52 以外に IC チップやメモリカードを使用するようにしてもよい。

【0053】

40

・上記実施の形態では揺動脚 58 のような爪としての押さえ部 63 やビス 77 によって機能部品（LED 基板 L1 ～ L3、表示装置 70）を固定するようにしていたが他の手段であっても構わない。

【0054】

・図 38 に示すように、ガラス窓 G を取り付けフレーム 4 の前面側に配置するようにしてもよい。この場合には取り付けフレーム 4 の裏面側に配置する場合に比べて遊技盤 3 から離間した位置に配置されることとなるため。このように後方に後退した段違い部 85 を形成することで上部装着部 35a、35b を基準として若干後方位置に配置するようにしてもよい。段違い部 85 は同時に大開口部 38 の補強ともなる。図 38 に示すように、セット状態において段違い部 85 は遊技盤 3 側に形成された凹部 86 に嵌合されるためガラ

50

ス窓 G のぐらつきが防止される（ガラス窓 G は自体は遊技盤 3 にもフレーム本体 3 5 にも接触することはない）。

【 0 0 5 5 】

・図 3 9 に示すように、案内レール 4 1 をガラス窓 G を取り付けフレーム 4 の前面側に装着するようにしてもよい。この場合ではガラス窓 G 自体はフレーム本体 3 5 よりも後方位置に配置されるものの、案内レール 4 1 自体はフレーム本体 3 5 の前面側に取り付けられている。

【 0 0 5 6 】

・取り付けフレーム 4 に対する機能部品の装着は種々の手段が考えられるが、図 4 0 に示すように、取り付けフレーム 4 に形成された透孔 9 1 に対して装着する機能部品 9 2 に向かい合って形成された一对の押さえ部 9 3 を設けたレバー 9 5 , 9 6 によって透孔 9 1 の相対向する内周縁 9 1 a と押さえ部 9 3 とを係合させるようにしてもよい。このような片持ち横爪方式のレバー 9 5 , 9 6 であれば内周縁 9 1 a の長手方向に沿って広く押さえ付けることが可能であるとともに、レバー 9 5 , 9 6 が水平方向に延出されるため前後方向に突起してパネル体の厚みが増してしまうようなことがない。このようにすればビスを使用しなくともしっかりと L E D 基板 L を保持させることができる。また、レバー 9 5 , 9 6 を揺動させることで容易に着脱が可能となる。

【 0 0 5 7 】

もちろん、このようなレバー 9 5 , 9 6 と上記ビス 7 7 等の併用は構わない。

【 0 0 5 8 】

・上記実施の形態では L E D 基板 L 1 ~ L 3 はフレーム本体 3 5 （取り付けフレーム 4 ）の前面側に配設されていたが、フレーム本体 3 5 の裏面側に配設するようにしてもよい。その場合には L E D の光が第 2 の同取り付け口 4 6 に装着されている第 2 の連結キャッチ 5 5 に邪魔されないように図 4 1 に示すように第 2 の連結キャッチ 5 5 に透孔 9 8 を形成する。これによって L E D の光が透孔 9 8 を通して前方に照明されるようになる。

【 0 0 5 9 】

・取り付けフレーム 4 （フレーム本体 3 5 ）の形状は上記に限定されることはない、フランジ 3 7 の形状や突出量、取り付け口 4 4 , 4 6 の形状、配置位置、数は適宜変更可能である。

【 0 0 6 0 】

・上記実施の形態ではフランジ 3 7 側をフレーム本体 3 5 に当接させたが、逆向きであってもよい。

【 0 0 6 1 】

・上記各実施の形態では先にすべての第 1 の連結キャッチ 5 3 （又は第 2 の連結キャッチ 5 5 ）をフレーム本体 3 5 に装着してから L E D 基板 L 1 （又は L 2 , L 3 ）を装着するようにしていたが、これは装着作業の一例であって例えば連結キャッチ 5 3 を 1 つ着けるとに L E D 基板 L 1 （又は L 2 ）を装着するようにしてもよいし、すべての連結キャッチ 5 3 , 5 5 を着けてから L E D 基板 L 1 ~ L 3 を装着するようにしてもよい。

【 0 0 6 2 】

・上記各実施の形態ではビス 5 9 によって扉枠本体 1 5 に対して取り付けフレーム 4 を固定していたが、ビス 5 9 以外の手段、例えば扉枠本体 1 5 に爪部材を形成し取り付けフレーム 4 側の係合部材に対して掛止させるようにして固定してもよい。また、ビス 5 9 と爪部材を併用するようにしてもよい。

【 0 0 6 3 】

・上記ケーブル C b のような配線を保持する保持手段を設けるようにしてもよい。

【 0 0 6 4 】

・上記取り付けフレーム 4 の大開口部 3 8 の内周には突出部 3 9 a ~ 3 9 c が形成されておりこれらが一種の遮蔽壁として大開口部 3 8 の外側が見えにくくなっていた。しかし、逆に突出部 3 9 a ~ 3 9 c をそれほど突起させずに内部を積極的に見せるようにしてもよい。

10

20

30

40

50

【 0 0 6 5 】

・上記実施の形態では機能部品の例として第 1 ~ 第 3 の L E D 基板 L 1 ~ L 3 と表示装置 7 0 を例として挙げたが、その他装飾用のカバー、ガラス保持枠、中継基板、配線保持部材等の機能部品を装着するようにしてもよい。

【 0 0 6 6 】

・前記取り付けフレーム 4 では特に扉枠 5 のための装飾用の機能部品である L E D 基板 L 1 ~ L 3 と表示装置 7 0 を装着していたために、これら機能部品は取り付けフレーム 4 の前面側に配置されていたが、部品によっては裏面に配設するようにしても構わない。

【 0 0 6 7 】

・上記各実施の形態はパネル体として特に扉枠 5 に反映した実施の形態として説明したが、他のパネル体、例えばパチンコ機本体 1 や機構盤 1 1 に応用することも可能である。

【 0 0 6 8 】

・本実施の形態はいわゆるパチンコ機以外の例えばスロットマシンやパチロットにも応用可能である。

【 0 0 6 9 】

・その他、本発明の趣旨を逸脱しない態様で実施することは自由である。

【 0 0 7 0 】

本発明の目的を達成するために上記実施の形態から把握できるその他の技術的思想について下記に付記として説明する。

(1) 前記機能部品は前記金属製ベースに着脱可能に装着されることを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

【 0 0 7 1 】

これによって機能部品の交換やリサイクルが容易に行えることとなる。

(2) 前記機能部品には同面に形成されたレバーを設け、同レバーを常時は同レバーに形成された係合部を前記金属製ベースに形成された透孔の周縁と干渉させるとともに、同基部を中心として同透孔の周縁から離間する方向に向かって撓ませることで同金属製ベースとの機能部品の着脱時には同金属製ベースと干渉しない位置に移動可能としたことを特徴とする請求項 1 又は付記 1 に記載の遊技機。

【 0 0 7 2 】

例えば上記実施の形態の図 4 0 のいわゆる片持ち横爪方式のレバー 9 5 , 9 6 が考えられる。これによってレバーを撓ませることで容易に金属製ベースに対して機能部品を着脱することが可能となる。

(3) 前記機能部品は仲介部材を介して前記金属製ベースに着脱可能に装着されることを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

【 0 0 7 3 】

これによって加工しにくい金属製ベースに対して複雑な取り付けようの加工を施さなくとも仲介部材を介することによって確実に機能部品を装着することができる。

(4) 前記仲介部材は前記金属製ベースに形成された透孔に対して固定手段によって固定されることを特徴とする付記 3 に記載の遊技機。

【 0 0 7 4 】

これには例えば上記実施の形態の揺動脚 5 8 のように爪によって固定する場合や、ビス 7 7 によって螺着する場合がある。

(5) 前記仲介部材にはレバーを設け、同レバーを撓ませることで同レバーに形成された係合爪によって前記金属製ベースに形成された透孔に掛止させ、もって仲介部材を同ベースに装着するようにしたことを特徴とする付記 3 又は 4 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 7 5 】

レバーとは上記実施の形態では揺動脚 5 8 であり、係合爪とは例えば上記各実施の形態のような押さえ部 6 0 がこれに相当する。このような装着手段を採用することで作業の効率化を図ることができる。

(6) 前記係合爪は前記透孔の対向する両縁部に係合爪が係合されるように対向配置され

10

20

30

40

50

ていることを特徴とする付記 5 に記載の遊技機。。

【 0 0 7 6 】

これによって仲介部材は金属製ベースに対してしっかりと固定される。

(7) 前記レバーの係合爪には機能部品の同係合爪に対する押圧による圧力を分散させ同レバーに前記透孔の側方に向かって撓ませる方向のベクトル成分を付与する斜状部を形成したことを特徴とする付記 5 又は 6 に記載の遊技機。

【 0 0 7 7 】

これによって仲介部材を金属製ベースの透孔に押し込むだけで斜状部の作用でレバーが揺動し、仲介部材を透孔位置に装着させることができるので作業が効率化する。斜状部とは上記実施の形態では案内面 6 1 である。

【 0 0 7 8 】

これによってワンタッチで仲介部材を装着することができ、作業の効率化とコストダウンに貢献する。

(8) 前記透孔は装着する前記仲介部材よりも大きく開口しており、補助部材によって仲介部材とともに同透孔を塞ぐようにしていることを特徴とする付記 3 ~ 7 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 7 9 】

これによって金属製ベースに種々の形状の仲介部材を装着することができひいては仲介部材に保持される機能部品の大きさの如何にかかわらず装着できることとなる。この場合に透孔は仲介部材と補助部材によって完全に塞がれなくともよい。補助部材とは上記実施の形態では封塞プレート 7 3 が相当する。

(9) 前記 2 以上の仲介部材は 1 つの前記機能部品を保持することを特徴とする付記 3 ~ 8 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 8 0 】

これによって一つの仲介部材では取り付けにくい機能部品の装着が可能となる。

(1 0) 前記仲介部材は透孔への装着状態で下方から支持手段によって支持されていることを特徴とする付記 3 ~ 9 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 8 1 】

これは特に重量のある機能部品例えば表示装置を搭載したユニット化ベースにおいて有効である。支持手段とは上記実施の形態では補強リブ 4 5 , 4 7 等である。

(1 1) 前記支持手段は前記仲介部材に支持された前記機能部品の下方への脱落を防止する機能を兼ねていることを特徴とする付記 1 0 に記載の遊技機。

【 0 0 8 2 】

例えば上記実施の形態 1 のように連結キャッチ 5 3 に支持された L E D 基板 L 2 は構造上補強リブ 4 5 がなければ揺動脚 5 8 をスライドして下方に脱落してしまうこととなる。これによって付記 8 の効果に加え脱落が防止されることとなる。

(1 2) 前記仲介部材はプラスチック製であることを特徴とする付記 3 ~ 1 1 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 8 3 】

これによって機能部品の形状にうまく適合した部品に成形することが可能である。また、リサイクルが可能である。

(1 3) 前記仲介部材は弾性素材から構成されていることを特徴とする付記 3 ~ 1 1 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 8 4 】

これによって機能部品を撓ませずに仲介部材側を撓ますことが容易となるため機能部品に対する負荷が少なくなる。

(1 4) 前記金属製ベースには補強加工が施されていることを特徴とする請求項 1 若しくは付記 1 ~ 1 3 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 8 5 】

補強加工とは上記各実施の形態ではフランジ 3 7 、凹部 3 9 、突出部 3 9 a ~ 3 9 c 、

10

20

30

40

50

段違い部 8 5 等が相当する。これによって金属製ベースの強度が増加する。

(1 5) 前記金属製ベースには電機部品用の配線の収納部が形成されていることを特徴とする請求項 1 若しくは付記 1 ~ 1 4 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 8 6 】

上記実施の形態では凹部 3 9 が相当する。凹部 3 9 は同時にベースの補強も兼ねている。

(1 6) 前記金属製ベースには同ベースに装着される前記機能部品についての情報の読み取りが可能とされた識別媒体が配設されていることを特徴とする請求項 1 若しくは付記 1 ~ 1 5 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 8 7 】

情報とは例えばリサイクル回数、リサイクル可能な日限情報、材質、製造年月日等が挙げられる。識別媒体としては例えば上記実施の形態のようなシール 7 4 以外に I C チップ、メモリカード等が挙げられる。情報の開示手段としては上記実施の形態のように直接日付を記載することの他に、識別コード（例えばバーコード、Q R コード）を使用することが可能である。識別コードを使用した場合には読み取り装置が必要となるため情報の秘密性が保持できるという利点がある。

(1 7) 前記金属製ベースには外部端子に接続されたアース線が配設されていることを特徴とする請求項 1 若しくは付記 1 ~ 1 6 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 8 8 】

これによってパチンコ遊技機を使用した際に蓄積されるた静電気をアーシングして放電することが可能となっている。

(1 8) 金属製ベースに形成された前記透孔は装着する基準となる前記機能部品に対してより大きく開口されており余った開口部分を同機能部品と連結された補助部材によって封塞することで異なる種類の機能部品を同透孔に面して配置するようにしたことを特徴とする請求項 1 若しくは付記 1 ~ 1 7 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 8 9 】

これによって種々の機能部品を金属製ベースに配置させために透孔を大きく形成しても補助部材によって封塞することで透孔部の補強をすることができる。

(1 9) 前記金属製ベースと同金属製ベースが装着される他の機能部品との間には他の機能部品が挟持されていることを特徴とする請求項 1 若しくは付記 1 ~ 1 8 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 9 0 】

これによって機能部品の機構をより高めることができる。例えば L E D の光を拡散させる散光シートのようなものが考えられる。

(2 0) 前記金属製ベースには遊技盤の遊技面を前方に露出させるための開口部が形成され、同開口部周縁には遮蔽壁が配設されていることを特徴とする請求項 1 若しくは付記 1 ~ 1 9 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 9 1 】

遮蔽壁に阻まれて外側が見えにくくなっている。そのため、遊技者の目を気にすることなくパネル体や機能部品（取り付けフレーム 4 や扉枠本体 1 5 等）の設計をすることができる。

(2 1) 前記金属製ベースに装着される窓ガラス取り付け用のガラス用レールは同金属製ベースを基準として後方位置に配置されていることを特徴とする請求項 1 若しくは付記 1 ~ 2 0 のいずれかに記載の遊技機。

(2 2) 前記金属製ベースに装着される窓ガラス取り付け用のガラス用レールは同金属製ベースを基準として前方位置に配置されていることを特徴とする請求項 1 若しくは付記 1 ~ 2 1 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 9 2 】

ここに前方位置とはガラス用レール及び窓ガラスとも金属製ベースよりも前方にある場合のみではなく、例えば上記図 3 9 に示すようにガラス用レールの取り付け位置が前方に

10

20

30

40

50

ある場合も含む。

(23) 前記金属製ベースに隣接する遊技盤には前記ガラス用レールを直接的又は間接的に保持する保持手段が形成されていることを特徴とする請求項1若しくは付記1～21のいずれかに記載の遊技機。

【0093】

例えば上記図38に示すように遊技盤3に形成された凹部86が保持手段に該当する。また、間接的とは上記図38のように案内レール41が凹部86に直接係合するのではなく段違い部85を介して係合されているような場合をいう。

(24) 前記金属製ベースは同ベースが固定される機能部品(上記実施の形態では扉枠本体15)との間でヒンジ部を中心に互いに回動可能であることを特徴とする請求項1若しくは付記1～23のいずれかに記載の遊技機。

【0094】

これによって点検作業等において互いに開放させることができ作業効率が極めて向上する。

(25) 前記金属製ベースは同金属製ベースを構成するパネル体とは別のパネル体に対してヒンジ部を中心に回動可能であることを特徴とする請求項1若しくは付記1～24のいずれかに記載の遊技機。

【0095】

他のパネル体とは上記実施の形態では例えばパチンコ機本体1が挙げられる。(26) 前記金属製ベースには複数の機能部品装着用の透孔群が形成され、同透孔群には常時は機能部品を装着しない予備的な透孔が含まれることを特徴とする請求項1若しくは付記1～25のいずれかに記載の遊技機。

【0096】

これによって、将来の機能部品の変更、例えばリサイクルした金属製ベースに別の機能部品を装着するような対応が可能となる。透孔には直接機能部品を装着しても上記仲介部材を介在させてもよい。

(27) 前記複数の機能部品は複数種類の部品から構成されることを特徴とする請求項1若しくは付記1～26のいずれかに記載の遊技機。

【0097】

ここに複数種類とは機能に共通性があっても総体的には異なる機能である場合、例えば上記実施の形態においてLED基板L1～L3と表示装置70を取り付けフレーム4(フレーム本体35)に搭載させるような場合である。

(28) 前記金属製ベースに装着される前記機能部品は電気部品であることを特徴とする請求項1若しくは付記1～27のいずれかに記載の遊技機。

【0098】

電気部品とは上記LED基板L1～L3のように発光部品やカード操作機構、各種表示装置、スピーカ、その他電源から電力を供給されるものを広く言う。このようにユニット化ベースに電機部品をまとめることで配線作業や点検の便宜を図ることができ、また、パチンコ遊技機を回収した際にユニット化ベースを取り外しこれをチェックすることで電機部品としてリサイクルするか廃棄するかの判断もできることとなる。

(29) 前記金属製ベース又は/及び同金属製ベースに装着される前記機能部品はそのまま再使用することのできる機能を有することを特徴とする請求項1若しくは付記1～28のいずれかに記載の遊技機。

【0099】

このような機能部品は特に大きく加工する必要もなく再利用できることからリサイクル性が高い。例えば上記実施の形態のLED基板L1～L3が挙げられる。

(30) 前記金属製ベースに装着される機能部品は前記仲介部材を介して金属製ベースよりも前方位置或いは後方位置に配置されることを特徴とする請求項1若しくは付記1～29のいずれかに記載の遊技機。

【0100】

10

20

30

40

50

これによって所望の機能部品をより前方位置或いは後方位置に配置できることとなる。
上記実施の形態では揺動脚 5 8 に支持される支持板 8 1 と連結部 8 2 がこれに相当する。
(3 1) 前記複数の機能部品は前記金属製ベースの前面側に配置されることを特徴とする
請求項 1 若しくは付記 1 ~ 3 0 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 1 0 1 】

なるべく前方に配置させることが好ましい機能部品にとって有利である。

(3 2) 前記複数の機能部品は前記金属製ベースの裏面側に配置されることを特徴とする
請求項 1 若しくは付記 1 ~ 3 1 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 1 0 2 】

なるべく後方に配置させることが好ましい機能部品にとって有利である。

10

(3 3) 前記金属製ベースには複数の発光部品が装着されることを特徴とする請求項 1 若しくは付記 1 ~ 3 2 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 1 0 3 】

これによって特にリサイクル性が重視される発光部品を一括して取り扱うことが可能となる。発光部品とは上記では L E D 基板 L 1 ~ L 3 である。

(3 4) 前記金属製ベースの裏面側に前記発光部品が装着される場合には同発光部品の照明が同金属製ベースを通して前方に導かれるように同金属製ベースに透孔が形成されることを特徴とする付記 3 3 に記載の遊技機。

【 0 1 0 4 】

これによって発光部品を後方位置に配置する際の照明が可能となる。

20

(3 5) 前記発光部品が前記仲介部品を介して前記金属製ベースに装着されている場合に、同仲介部品によって前記透孔が塞がれる場合には第 2 の透孔を同仲介部品に形成して照明が前方に導かれるようにしたことを特徴とする付記 3 4 に記載の遊技機。

【 0 1 0 5 】

上記実施の形態では図 4 1 の透孔 9 8 が第 2 の透孔に相当する。

【図面の簡単な説明】

【 0 1 0 6 】

【図 1】本発明の実施の形態 1 のパチンコ遊技機の斜視図。

【図 2】同じパチンコ遊技機の正面図。

【図 3】同じパチンコ遊技機の分解側面図。

30

【図 4】扉枠本体（扉枠）の正面図。

【図 5】扉枠本体（扉枠）に対するカバー配置位置を説明する正面図。

【図 6】取り付けフレームの背面図。

【図 7】同じ取り付けフレームの背面からの斜視図。

【図 8】同じ取り付けフレームの正面からの斜視図。

【図 9】L E D 基板の斜視図。

【図 1 0】L E D 基板の斜視図。

【図 1 1】連結キャッチの背面からの斜視図。

【図 1 2】連結キャッチの正面からの斜視図。

【図 1 3】連結キャッチの側面図。

40

【図 1 4】連結キャッチの背面からの斜視図。

【図 1 5】連結キャッチの正面からの斜視図。

【図 1 6】連結キャッチの側面図。

【図 1 7】ヒンジ部の拡大分解斜視図。

【図 1 8】連結キャッチの装着方法を説明する斜視説明図。

【図 1 9】L E D 基板の装着方法を説明する斜視説明図。

【図 2 0】L E D 基板が装着された状態の斜視図。

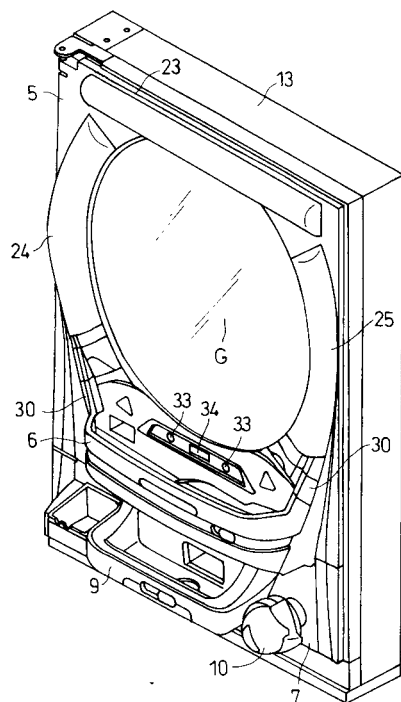
【図 2 1】(a) ~ (c) は連結キャッチの装着方法の概略説明図、(d) ~ (f) は L E D 基板の装着方法の概略説明図。

【図 2 2】連結キャッチの装着方法を説明する斜視説明図。

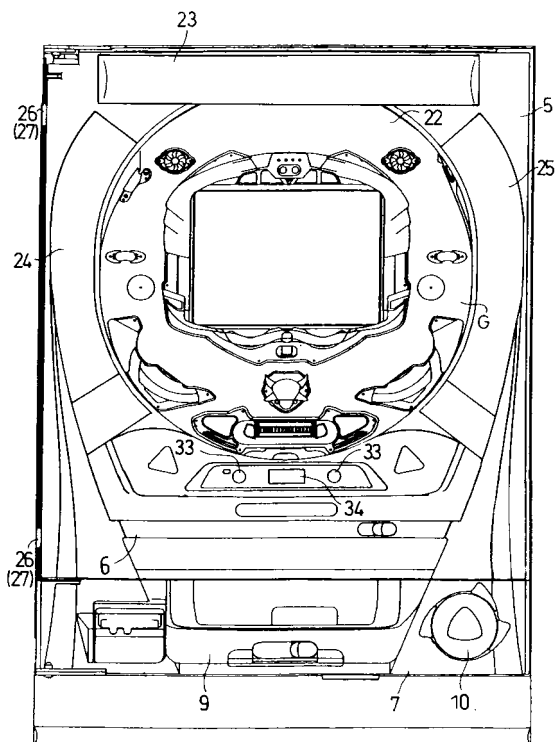
50

- 【図 2 3】LED 基板の装着方法を説明する斜視説明図。
- 【図 2 4】LED 基板が装着された状態の斜視図。
- 【図 2 5】(a) ~ (c) は連結キャッチの装着方法の概略説明図、(d) ~ (f) は LED 基板の装着方法の概略説明図。
- 【図 2 6】LED 基板が装着された状態の取り付けフレームの背面図。
- 【図 2 7】図 2 6 における A - A 線での断面図。
- 【図 2 8】図 4 における B - B 線での断面図。
- 【図 2 9】取り付けフレームを扉枠本体に装着した状態の背面図。
- 【図 3 0】他の実施の形態の扉枠本体（扉枠）の正面図。
- 【図 3 1】他の実施の形態の扉枠本体（扉枠）に対するカバー配置位置を説明する正面図 10
- 。
- 【図 3 2】他の実施の形態における表示装置の取り付けフレームへの装着方法を説明する分解斜視図。
- 【図 3 3】同じく表示装置を取り付けフレームへ装着した状態の正面図。
- 【図 3 4】他の実施の形態の LED 基板の装着方法を説明する斜視説明図。
- 【図 3 5】他の実施の形態の LED 基板の装着方法を説明する側断面図。
- 【図 3 6】他の実施の形態の LED 基板の装着方法を説明する側断面図。
- 【図 3 7】他の実施の形態の連結キャッチの斜視図。
- 【図 3 8】他の実施の形態の LED 基板、連結キャッチ及び取り付けフレームの断面図。
- 【図 3 9】他の実施の形態の LED 基板、連結キャッチ及び取り付けフレームの断面図。 20
- 【図 4 0】他の実施の形態の機能部品と取り付けフレームの装着状態を説明する説明図。
- 【図 4 1】他の実施の形態の LED 基板、連結キャッチ及び取り付けフレームの断面図。
- 【符号の説明】
- 【 0 1 0 7 】
- 4 ... 取り付けフレーム、5 ... 扉枠、1 5 ... 扉枠本体、1 6 ... LED 基板用フレーム、5 3 , 5 5、L 1 ~ L 3 ... LED 基板。

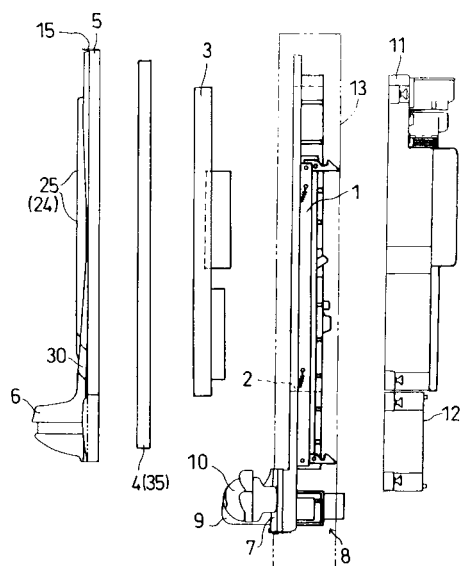
【 圖 1 】



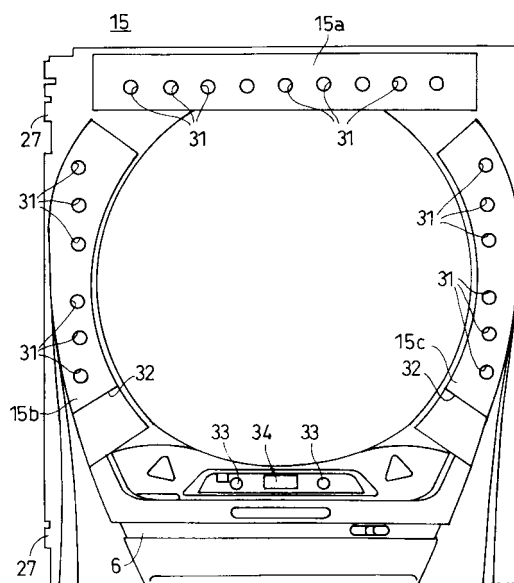
【 図 2 】



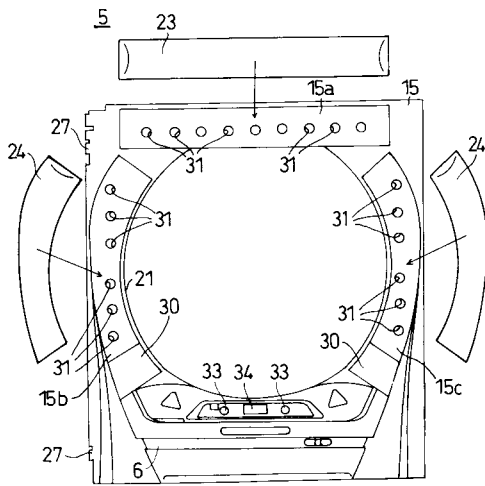
【 図 3 】



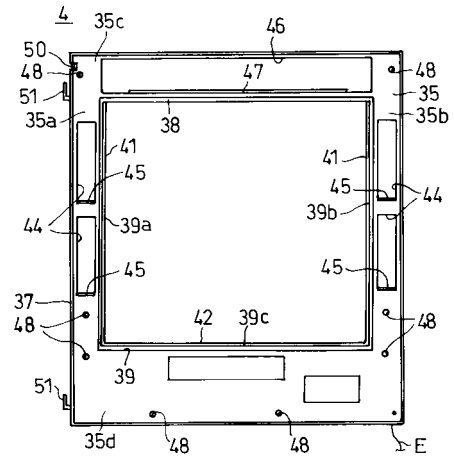
【 図 4 】



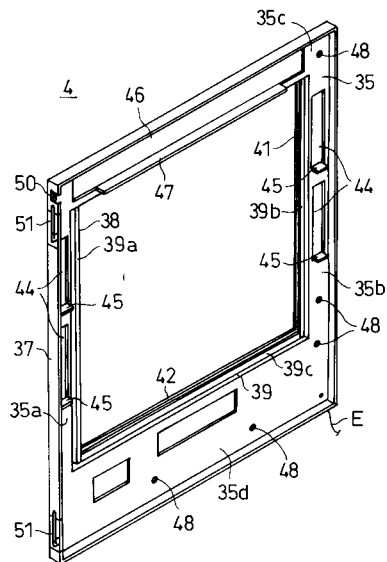
【図 5】



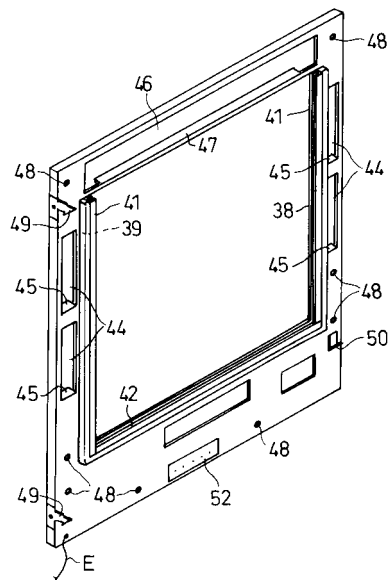
【図 6】



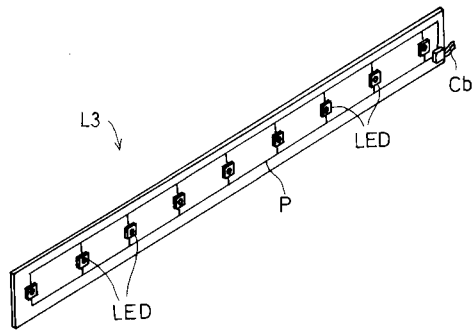
【図 7】



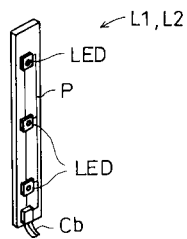
【図 8】



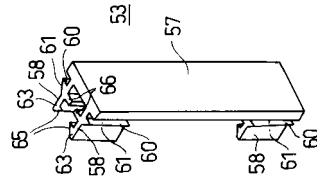
【図 9】



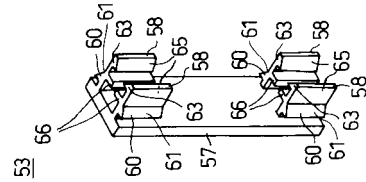
【図 10】



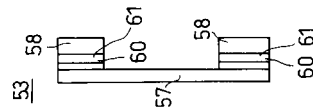
【図 11】



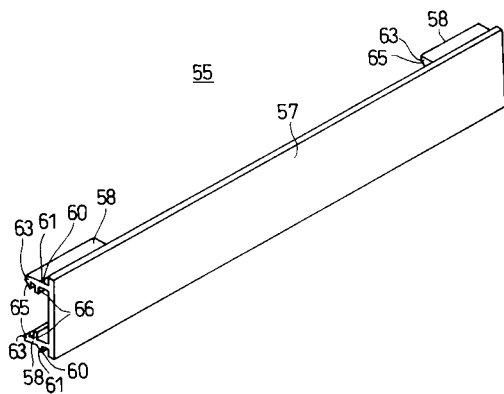
【図 12】



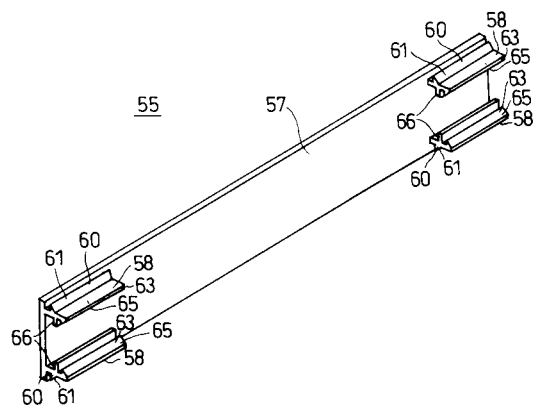
【図 13】



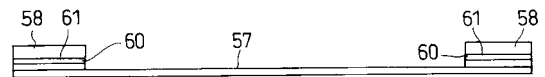
【図 14】



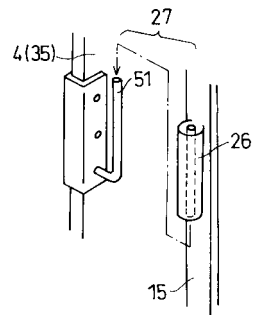
【図 15】



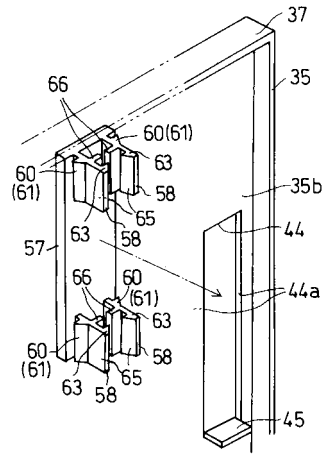
【図 16】



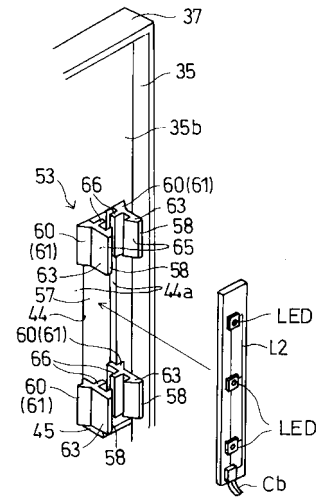
【図 17】



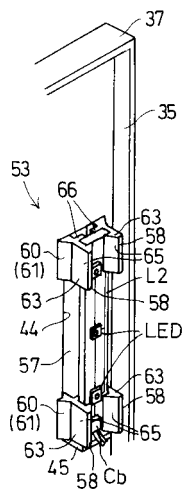
【図 18】



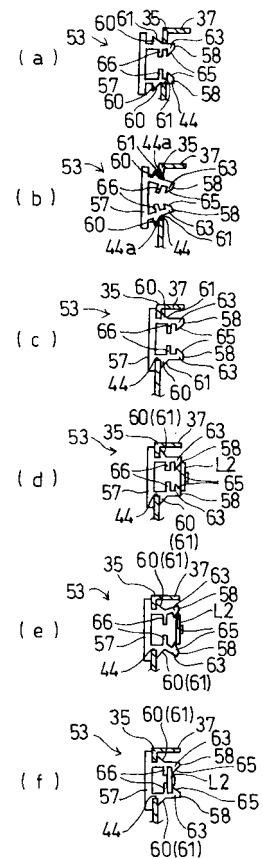
【図 19】



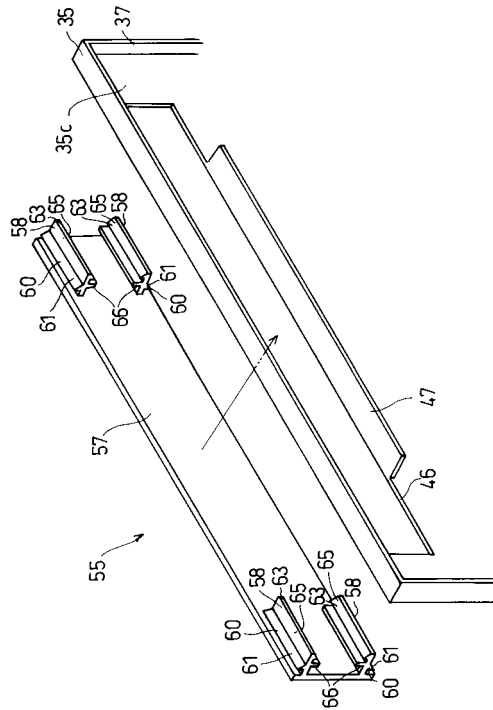
【図 20】



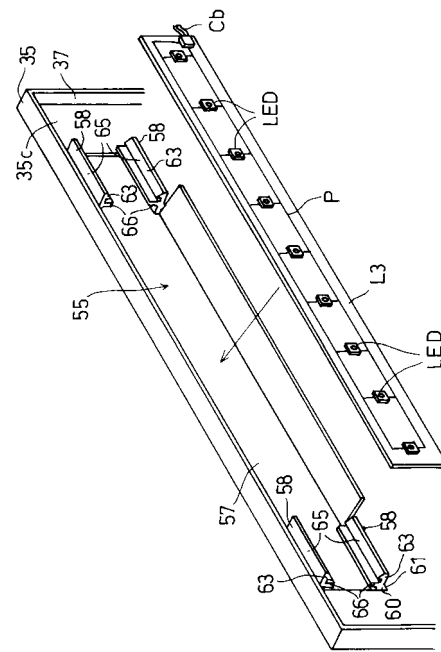
【図 21】



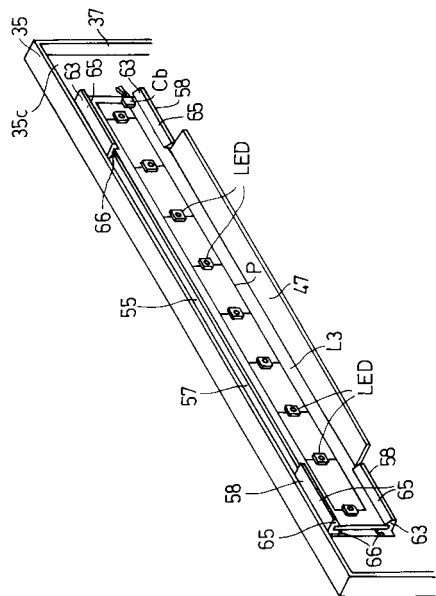
【図 2 2】



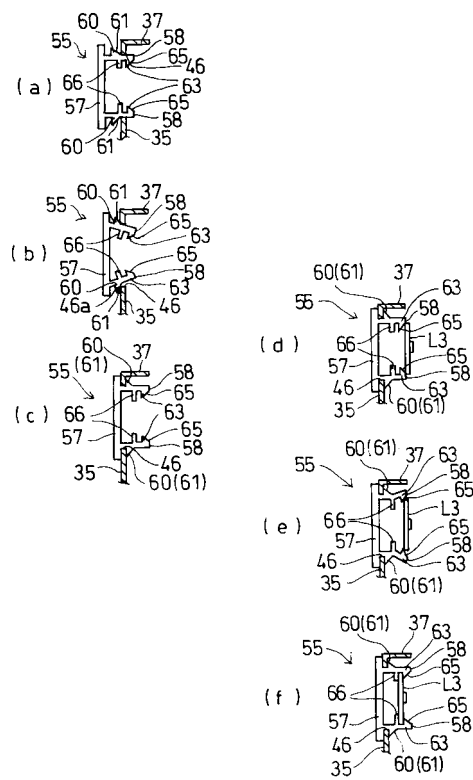
【図 2 3】



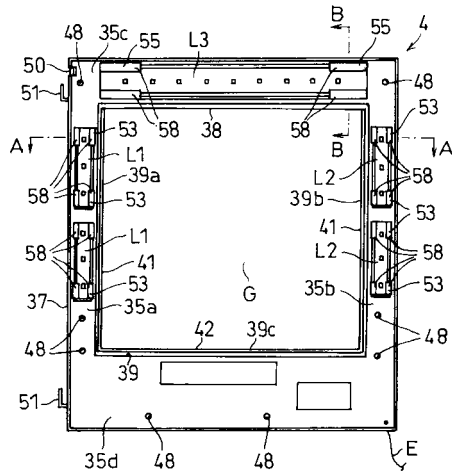
【図 2 4】



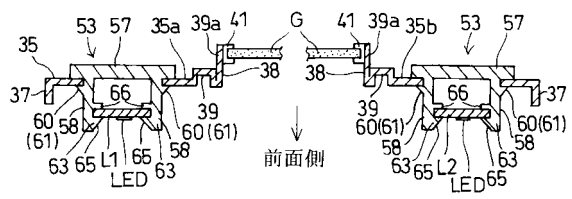
【図 2 5】



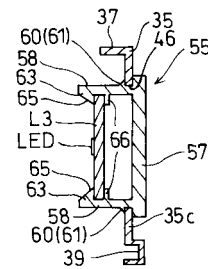
【図 26】



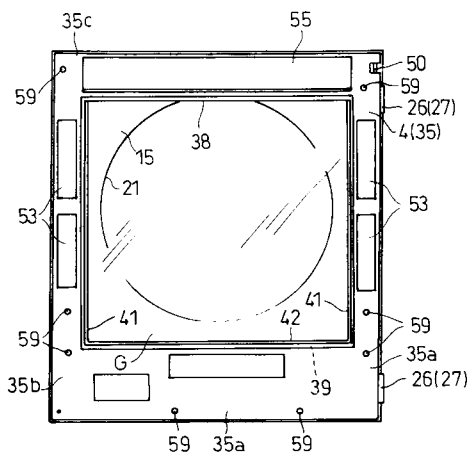
【図 27】



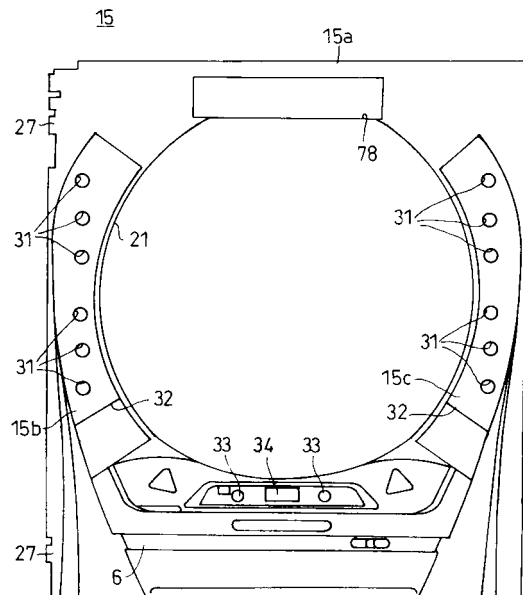
【図 28】



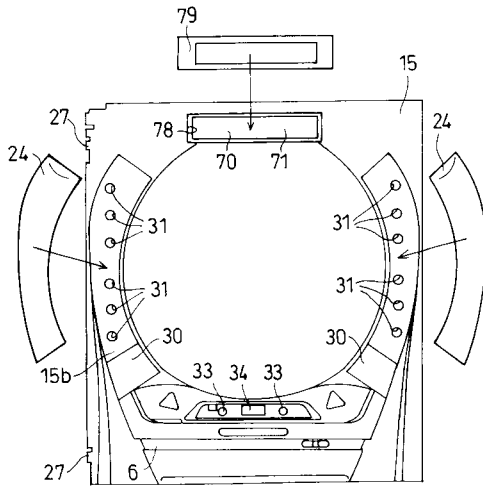
【図 29】



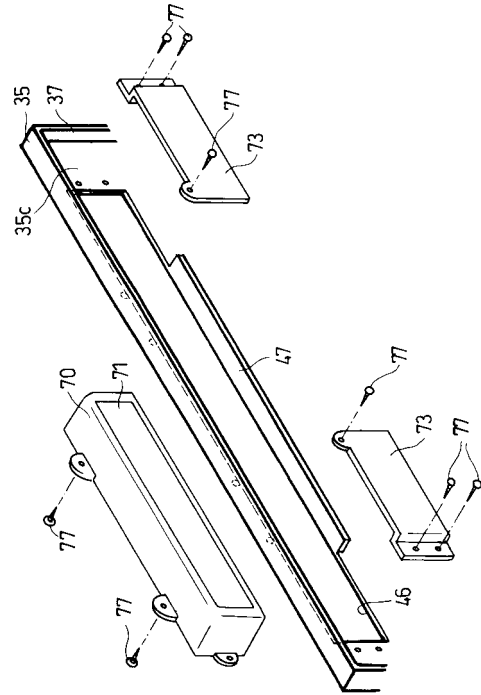
【図 30】



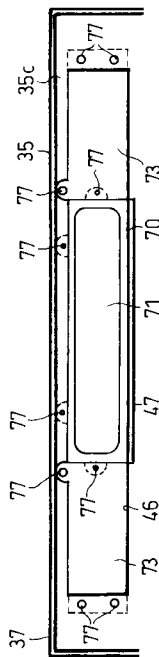
【 図 3 1 】



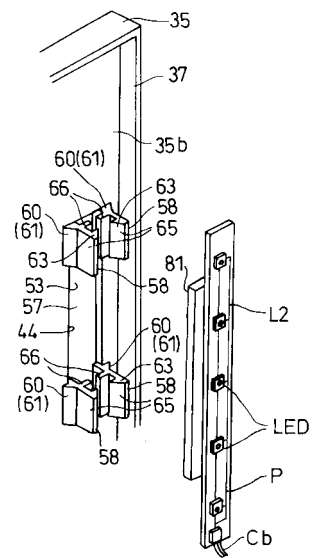
【 図 3 2 】



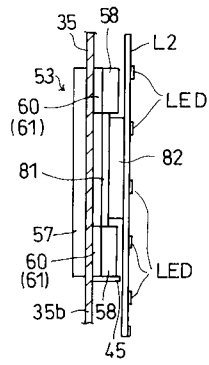
【 図 3 3 】



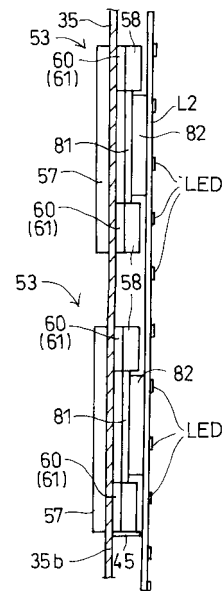
【 図 3 4 】



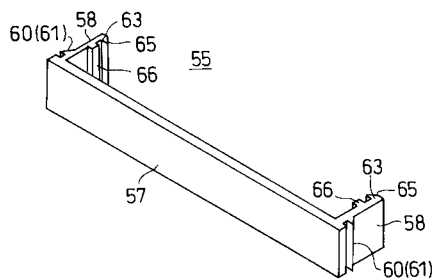
【図 3 5】



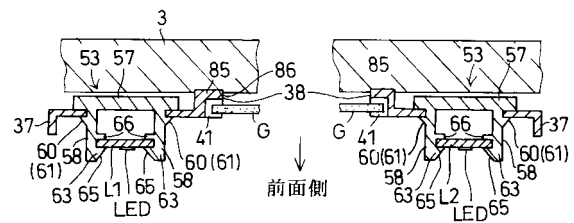
【図 3 6】



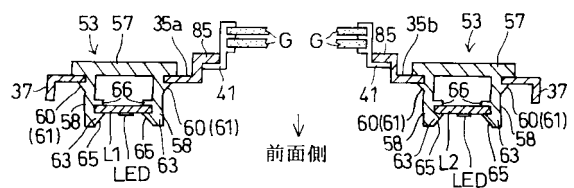
【図 3 7】



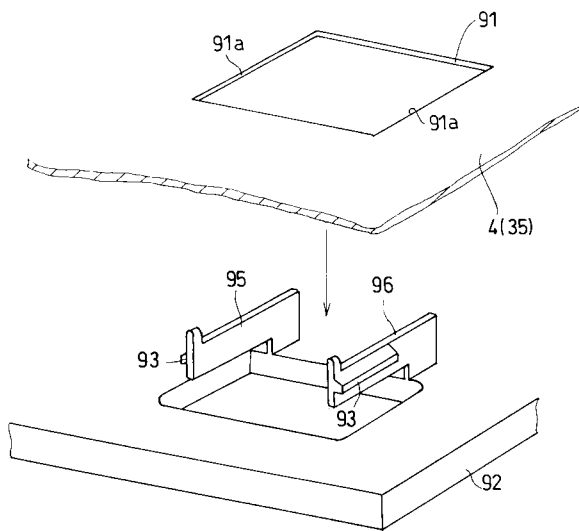
【図 3 8】



【図 3 9】



【図 40】



【図 41】

